



『森永ミルク』と『森永ドライミルク』の大判チラシ

平成の世も四半世紀が過ぎ、最近では昭和の時代を懐かしむ声
が聞かれますが、今回はかつて薬局の店頭で大きな一角を占めてい
た粉ミルクにちなんだ昭和の雰囲気を感じられるチラシや広告を
ご紹介します。

江戸時代は、母乳の出が少ないなどの理由で母乳を与えること
ができない場合、もらい乳をしたり穀粉などを煮溶かした代用乳
を与えていました。明治時代に入ると、牛乳や薄めて使う保存性の
高い加糖練乳を利用しましたが、大正時代のはじめに乳児の栄養
代謝に関する研究が始まり、我が国初の育児用粉ミルク『キノミ
ール』が発売されました。昭和15年に牛乳・乳製品の配給統制規制が
制定され、育児用乳製品も配給制となり、その約7割は加糖練乳だっ
たようです。しかし加糖練乳は砂糖が多すぎて育児には好ましく
ないとの理由で粉乳の検討がすすめられ、昭和16年に育児用粉ミ
ルクの規格が定められました。その後、乳幼児に必要な栄養素の添
加が認められ、現在は、先天的に栄養素代謝異常がある乳児のた
めの治療用特殊ミルクや牛乳アレルギー用のミルクもあります。

また巷に子どもの声があふれていた時代の粉ミルクのチラシや広告
当時の画家たちによる手書きの絵のいずれにも子を想う母の優し
さとあたたかさが満ち溢れています。



『ラクトーゲン』は濠州からの輸入品



書き込みスペースのある
絵葉書



練乳であることが
一目でわかる



哺乳瓶もいろいろと形を変えたが、この頃には今とほとんど同じ形になった。



A5サイズの大きなチラシ



この時代にはめざらしい漫画風イラスト



金太郎マークの粉ミルク



製品説明冊子(表紙)